

行政視察報告書

令和7年11月14日

長浜市議会議長 伊藤 喜久雄 様

長浜市議会議員

鬼頭 明男

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 令和7年度産業建設常任委員会行政視察研修
2. 視察期間 令和7年10月29日（水）～30日（木）
3. 視察場所及び目的
 - ①静岡県掛川市
「民泊の推進について」
 - ②愛知県安城市
「アグリライフ支援センターをはじめとした農業振興施策について」
 - ③安城市中心市街地拠点施設「アンフォーレ」見学

4. 調査内容感想等

・視察の目的

○静岡県掛川市の「民泊の推進について」

1. 空き家を民泊に転用する際の所有者や地域住民からの理解や協力、2. 民泊によって地域経済や観光振興にどのような効果3. 公報や支援策、4. その他の空き家活用についてなど、先進地の掛川市の取組から学ぶ。

・視察の内容

●掛川市の空き家対策「協定締結」平成30年2月空き家対策に関する協定書締結。

○互いに協力し、掛川市空家等対策計画の基本方針に基づき、空き家対策を都市縮小時代の「まちづくりマネジメント」（官民協働による包括的な施策として実施）と捉え、空き家問題を地区・地域の魅力に変え、価値を向上させる取組を推進することを目的

とし、連携し空き家対策に取り組み、NPO 法人かけがわランド・バンクは計画にあるタスクフォースの役割を担うこととなった。

●空家利活用(民泊推進)による地域活性化事業

○R 元年度 NPO 法人かけがわランド・バンクが「空家利活用(民泊推進)による地域活性化事業」を実施 ①【課題と目的】空き家問題の解決策として、除却だけではない利活用での解決を検討。交流人口の増大につながる民泊事業に着目し、新規の創業者発掘へとつなげる。②【取り組み内容】・既存民泊事業者への情報公開・民泊用物件の掘り起こしおよび情報提供・民泊事業操業マニュアル作成・建築チェックリスト作成・民泊事業セミナー開催

●空家の実態調査(令和7年度)

○R7. 6. 27 株式会社ゼンリンと空家等実態調査業務委託契約締結①市内の全ての空き家を現地調査/空き家のランク付けを実施流通していないが使える空き家の掘り起こし・空き家所有者へアンケートを実施→空家等対策計画(R8. 4～R17. 3)の基礎資料として活用・管理不全空家等の選定基礎資料として活用。NPO 法人かけがわランド・バンクを紹介+α 空き家のマッチング&買取の仕組みを構築検討中

●その他、空き家情報の公開、民泊創業のマニュアルの作成・公開、事業セミナーの実施など民泊運営事例を含め説明を受けた。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

◇今全国で問題となっている空き家問題と民泊事業(その他の活用)の推進について、空き家の把握や利活用や特に民泊運営事例の公報が参考になりました。質問での民泊の利用の安全や衛生面の確保について、掛川市では「民泊は市の許可でないため、

行政としてチェック・指導はおこなっていません」との事でした。

◇民泊新法施行から1年、届け出数が急増する一方で、騒音やゴミ問題など地域住民との摩擦も全国でニュースとなっています。自治体が条例で営業制限を設ける動きもありますが、規制緩和の問題に自治体が追いつけない状況でもあると考えます。地域住民と観光客が安心して共存できる環境を作る事が求められます。そのためには、近隣住民の合意を条件とするなどの対応も大切だと思います。景観や文化を守りつつ空き家活用の民泊推進を求めていると思います。

・視察の目的

○愛知県安城市「アグリライフ支援センターをはじめとした農業振興施策について」

1. アグリライフ支援センターでの栽培技術研修後の広がり 2. 新規就農者の定着を図るための土地の確保や販路支援 3. 高齢化や担い手不足への対応策など、先進地の安城市の取組から学ぶ。

・視察の内容

●安城市アグリライフ構想の目的

○市域の半分を農地が占める本市では、農地の有効活用が重要です。優良農地の保全（量）と、農地を媒体とした市民交流の促進（質）を一体的に推進し、農業振興を目指します。○アグリライフ（農のある暮らし）の普及を通じて、農業の持続的発展と農地保全を図ります。○3つの施策推進方向／1. 農業体験や栽培技術研修で“楽農人”を育成、2. 農作業体験で市民と農業者の交流や自然とのふれあいを促進、3. 「食」と「農」への理解を深め、市民の健康・生きがいをづくりを支援

【詳細】

●アグリライフの普及と「食」・「農」の体験 《農を知り食を学ぶ》

○安城アグリライフ構想の情報発信→市民に対して安城アグリライフ構想についての情報発信を行い、安城農業の取組みを普及するとともに、アグリライフ関連事業に参加する市民の裾野を広げます。市ホームページ『市民楽農倶楽部』の開設、○「食」と「農」にふれる機会の創出→農作業等の体験を通して「食」と「農」の役割などについて考える“きっかけ”を作ります。・市民や親子又は小学生などを対象に農作物の収穫体験を始めとして、実際に「食」と「農」にふれる機会となるような多彩な農業体験イベントを実施、○「食」と「農」への理解促進→安城アグリライフ構想に興味を持った方を対象に本構想や安城の農業について理解を深めてもらうとともに、アグリライフ関連事業への参加を促します。・楽農人の認定・楽農リーダーの出前講座

●アグリライフを支える人づくりのための拠点創設 《農を楽しむ人づくり》

○“楽農人”の育成→アグリライフに関心のある市民を対象に栽培技術指導を通して“楽農人”を育成します。将来的には安城農業の担い手・農業後継者の育成を目指します。・栽培技術研修、○“楽農人”を育てる人づくり→市民農園等における栽培技術指導や安城アグリライフ構想の普及などを行うことのできる指導者を育成します。・楽農リーダー養成講座・楽農リーダー登録制度、○「農」を応援する仕組みづくり→農業の現場で実際の農作業を継続的に経験することにより、市民と農業者の交流を図るとともに農業者の労働力を支援します。・振農サポーター制度

●地域分散型の市民農園の拡充を支援 《農を介した交流促進》

○身近な市民農園の整備促進→「農」的な活動の実践の場であり、地域住民の交流の

場でもある身近な市民農園の整備及び拡充を促進します。・市民農園の開設・運営支

援、○市民と農業者との交流促進→市民農園という場と「農」的な活動を通して、

農業者と利用者、地域住民との交流や自然とのふれあいを深めます。・地域交流事業

の開催、○市民農園の持続的な事業展開→市民農園運営組織のネットワーク化

●畑・樹園地お見合いシステム→貸し手：畑があるが高齢になって農業が出来ない方

と借り手：いまは畑はないけど将来は果樹農家になりたいなど、貸したい方と借りた

い方の橋渡しをする制度

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

愛知県安城市のアグリライフ支援センターは、地域の農業振興に寄与する重要な施設

でもあり、この取組が農業者の技術向上や経営支援を促進し、地産地消や地域経済の

活性化に繋がるものだと強く感じました。また、自然環境の保護や持続可能な農業の

実現を目指すことが、次世代への責任として求められているとも感じました。地域の

農業を支える多様な施策がさらに広がることが求められます。長浜市でも安城市のア

グリライフ支援の視察を参考にし、広がるよう求めています。